

ロータリーの未来を語る

本年2月に創立20周年を迎えた私達のクラブも62名という発足当時に願望として描いていた会員数に遂に到達致しました。この会員数の充実により各委員会ともそれぞれに本腰を入れて活動出来る状況になった次第で、誠

に喜ばしい限りであります。創立以来会員増強に全力を注いできたにもかかわらず、長い間40名前後で低迷し、従って委員会活動も予算と員数の両面からままならず、なみなみならぬ御苦労をされた歴代会長・幹事を初め当時の会員の皆様にとりましては此の喜びは一入と存じます。

20周年を迎え成人に達した当クラブとしては、真のロータリーの精神に沿った活動と発展を今ここで会長のリーダーシップの基に積極的に進めて頂きたいと願っております。各委員会も今まで果たせ得なかった色々な案件を一気に発展させようとする心意気は当然のことでありましょう。しかし、過去に手薄であったが故にそれで「良し」とされて来た委員会活動があったならば、それを見直さずして新たな活動のみを上乗せして行動することだけは避けたいものであります。即ち、ゆとりのある会員数で、従来の委員会活動をじっくりと見直し、その後に新たな活動を展開していても良いのではないのでしょうか？ ゆとりの中にこそきつと素晴らしい何かを見出すことが出来るのではないかと思いますのであります。

又、クラブの行事のみならず、分区単位の行事、地区の行事、そしてRIの行事など、年々増



加藤 守

えることはあっても減ることの少ない昨今であります。各ロータリアンに与えられる使命もおのずと増加してまいりまして、それを遂行する為には会員各位の熱意とより積極的な行動参加と併せて、本年度以上の会員増強に力を注いで行かなければならないと思います。しかしながら、創立当初と比較しますと私も含めて平均年齢が20才も上昇してしまいました。これを打開するためにも今後はより一層若い会員を、行動力の旺盛な会員を獲得してゆく必要があります。

尚、これに関連した事ではありますが、ここ数年来、賛否両論があって激しく議論が交わされてまいりました「女性会員入会」の問題もどうやら趨勢が固まってきた様でありまして、当276地区にもこの度の新クラブ誕生と共に最初の女性会員が誕生することとなり、極めて身近な問題として考えを新たにしなければならなくなりました。そして当クラブにおきまして今後更に多くの新しい会員を獲得するに際し、見過ごせない問題として明確な方針を示して頂く時期に来ているのではないかと思います。

国の内外を問わず、世の中は急速に変わりつつあります。以前には思いも掛けなかったソ連、中国、その他嘗ての社会主義国家にもロータリークラブが誕生するとの観測もあります。そうなれば今までのロータリーの概念も少しは変わってくるのではないのでしょうか、そして、その過渡期においては常に弾力的に対応して行かねばならない難しい時代が来ると考えられます。

何れにせよ、私どものクラブは新しい会員の方々が多数入会され、今活気に満ち溢れております。此の素晴らしい活力を決して失うことのないよう大切にしながら明るいロータリーの未来に向かって、当クラブの会員の皆様全員が力を合わせて一層の飛躍を遂げるべく頑張りたいと願っております。

このところ海外への進出を果たした日本の企業が、進出先の地域社会にとけこんで社会的貢献を行ない、「良き企業市民」としての地位を築こうという努力がめだつようになりました。フィラ

ンソロピーつまり社会的貢献をすることが、本来営利追及が最大の目標であった企業にとっても、最近では重要な課題になってきたわけです。これは継続企業(ゴーイング・コンサーン)として永続性を保ちたいと願う企業にと



西村 昌夫

とって、中・長期的な経営戦略として有効な方法でもあるのです。つまり企業が立地する地域社会で正しく受け入れられるためには、企業としても当然地域社会に社会的貢献を果たすことが必要になるからです。

ロータリークラブの社会奉仕の精神は、企業の発想から出たものではありません。しかし地域に対してなんらかの形で奉仕活動を行なおうという点では、共通の部分があります。

フィランソロピー活動が欧米でさかんなのは、市民自治の伝統や宗教的な背景があつてのことであり、日本にはなかなか根づかない活動だといわれてきました。しかしそれは違うと思います。豊かさを求めての経済活動(エコノミー)と地球環境の保全(エコロジー)のすぐれた調和があるところに、持続可能な成長があることがわかってきた今日、私たちは社会的貢献=社会奉仕活動のもつ現実的な意味に気づき、今後一層奉仕活動にはげむことが自分たちの幸せの持続と拡大につながることを悟っています。

ここでフィランソロピーについて少しくいほどふれたのは、こうした状況にあるときこそロータリークラブの奉仕活動の理念が人々によりよく理解されるのですといったからです。つまりロータリークラブの奉仕の精神が、世界のいたるところで理解され浸透するインフラストラクチュア(基盤)ができたわけです。

現代は共生(ともに生きる)時代です。相手を尊重しながらも、ともに生きうる範囲をひろげていき、聖書でいう「地の塩」としての発想と行動を私たちは「良き市民」としてとりつづけたと思います。それぞれの職業を通しての社会奉仕

活動、さらにはロータリークラブに属する会員としての奉仕活動、それらを私たち一人一人の立場で可能な範囲で日常的に行なうことが、ロータリークラブの存在を世間に正しく理解してもらい、支持してもらえる良き手だてだと思います。

尾張旭ロータリークラブは暖かくてまとまりのよいクラブです。この雰囲気を広げて、社会にそのまま伝えていけるような活動を会員の一人一人が心がけたいものです。

ロータリーは、1905年2月23日シカゴにおいてポールPハリスらによって第1回の会合が開かれ、以来今日まで、すでに86年を経過している。その間、172の国家および地域に広められ平成3年1月現在クラブ数で25,316、

会員総数は1,112,731人に達している。この様に今日まで会員拡大、会員増強は強化されており、この傾向は今後とも変わることはないと思われる。

今年度の国際ロータリー会長であるパウロV.Cコスタ氏は、西暦2000年までに会員数を200万人にということを提唱されている。その理由として、新しい国々がロータリーに加盟したことで、拡大の可能性が大きくなったこと、新しい奉仕の分野が開けて、ロータリーに対する世間の関心も高まり会員増強に追い風となっていること、社会の変化に伴い新しい職業分類が続々と生まれていること、女性の入会も認められたこと等をあげている。

確かにベルリンの壁崩壊以来国際的には政治、経済に変化が見られ、昨年にはソビエトにロータリーが設立されるに至っている。この現象は東欧諸国で増々増大されるであろうし、東南アジアの社会主義国へもやがて波及することと思われる。また女性会員の入会が認められたことから女医さんや女性経営者の入会が徐々に現れてきている。女性会員が入会するとすれば、お



安藤 公爾

17 そらく複数の入会者を迎えることが予想され、日本のRCの数は1930であることから、近い将来には4000名程の女性会員を迎えることになるのではなかろうか。さらに、最近都市部では二階建て、三階建てのRCが設立されている。

この様な状況において、尾張旭RCを見た場合その将来はどうなっていくのであろうか。当クラブの会員数は現在60数名であるが、21世紀に尾張旭市の人口が10万人になると仮定した場合、会員数は100名程度になるのではないか。しかし、会員数は、自然増加するといった性質のものではなく、クラブ自体がそれなりの努力をしなければ会員数の増大ははかられないであろう。その為には、地域にあってRC存続の必要性が認められ、会員自身会員であることに誇りと自信を持てることが必要である。

地域社会の問題としては、環境問題や国際理解について積極的に取り組んでいくことが必要であろう。幸い尾張旭市には森林公園というスバラシイ緑があるので、これを核として緑豊かな街づくりをすることが可能であろう。国際理解については、外国人との交流を町全体の中で考えていくこと、青少年の海外学習を実施すること等身近なことから取り組むことは可能であろう。

最後に、会員の立場からRCを見た場合、入会してよかったと思うことの出来るクラブであることである。その原点は何か。答は、「ロータリーの友情」であり、これが続く限りロータリーの未来は永遠であると言えるのではなかろうか。

ロータリーに入会して早や8年の歳月が過ぎようとしています。入会当時、ロータリーとは何かという疑問を持ったこともありましたが、原点は親睦をたもちながら、人とのふれあいを大事にしていく団体であると考えます。3年前、加藤守会長の下で幹事の経験もさせて頂きました。



谷口 伸夫

この1年間は無我夢中で頑張りました。大変勉強になりました。入会当時、ロータリーの入門書を時々読んだ事でしたが、幹事になり恥をかしいとは思いつつも、入門書を片手にして、全力投球したつもりですが、ある時には叱られ、時々、忠告を受けた事もあり大変良い勉強をさせて頂きました。

当クラブも今年創立20周年を迎えました。20周年を節目にこれからのロータリーは如何にあるべきであろうか、色々な事は考えられると思うが過去の事を反省しながら1,2の例をあげて考えてみたいと思います。例会について述べてみよう。

毎週の例会を苦痛に感じられる人もあらうかと思うが、小生入会時、1ヶ月に2～3回の例会がいいと思った事もあるが、毎週例会をする事により人とのふれあいがますます深まる様な感じで、現状のままだがよいと思う。例会時の着席の配置であるが、SAA、親睦委員の方々が大変苦慮されますが、月に1～2回着席に変化をもたせた方が活気が出てもっと有意義な例会になるのではないのでしょうか。3年近く、ロータリーのチャリティー野球を社会奉仕委員会が努力され、りっぱに成功されているのでありますが、会員全員がグラウンドに出て汗をかくのもどうでしょうか、いままで何度となく思ったことは、会員の一泊旅行はどうでしょうか。裸のふれあい、友と語りあう時間をもっと多く持てたらと思います。会員、家族の運動会も一度企画したらどうでしょうか、いろいろ考える事は多々ありますが、これから会員の人数も多くなるとは思いますが、多くなればなるほど会員の団結が大切であります。ロータリーを活性化する為には、行事に、多くの会員の参加が必要です。年に1～2回のFSMがありますが、あと2回位あったらと思います。これから30周年に向かって当クラブでも大きく成長しなければなりません、会員の皆様と手を取り合ってこれからも頑張っていきたいと思しますので、御指導、御便達の程宜しくお願いします。

未だ入会間もない私の様な者が、こんな事を書き留めるのは、本当におこがましい事ですが、入会してから、又、20周年の今年、気がついた事

を少し書いてみたいと思います。

20周年の記念式典は尾張旭RCらしい、簡素で、それでいて重みのある立派な式典であったとは思いますが、式典の他は20周年の折角の機会、場であったにもかかわらず、我々新しい会員にとっては解かりづらいものがありました。もっともっとRCは開かれた場であるべきであると思います。どこで何がどの様にして決定されているのか、解からない点が多く余りにも多すぎたし、「?」と思われる事も沢山あった様な気が致します。もっと多くの全ての会員が参画し、参加する形での20周年であったなら、より意義の深い結果が出たと思われれます。

RCの会員は、(私を除いて)それぞれの分野で秀でたものを持ち、人間的にも素晴らしい方々ばかりであります。そしてRCの内面的なもののレベルと言いますか、水準も非常に高いものがあるとは思いますが。しかしその反面、そんな立派な人々の集まりにしては、その労力、時間の消費と金銭の消費に対しての対価と言いますか、地域からの評価が余りにも低いというより、なきに等しい状態であります。果して、尾張旭の地域、市民にどれだけRCという団体が、そしてRCの内容、事業が理解、認識されているのでしょうか、その費用対効果という事を考えた時、余りにも淋しく残念であるという気がしてなりません。RCには、RCの理念があり、ルールがある事は勿論承知して居りますが、今日迄に出来上がってしまった変な形での殻に閉じ込められてしまっている様な現状ではないのでしょうか。

ここで他の団体の事を取り上げるのは、どうかとは思いますが、例えばJCにしても、LCにしても我々と比べると、より積極的に、地域に対してのアクションを起こしていますし、より効果をねらったものに取り組んでおります。RCは個人の資格での奉仕が第1義だと教えられてはおりますが、私にとっては歯がゆくなりませ



秋田 誠三

18 んし、RCも、もっと地域に対して、アピールする方法を考えるべきだと思います。

さて、こんな紙面を頂きましたので、皆さんはお笑いになるでしょうが、30周年に向かっての、私の空想、夢を書かせて頂きます。30周年の頃私が少しでもRCの中で、活躍の場が与えられていたなら、夢の一つでも実現出来たらと思っております。

一つの夢は、RC、LCの合同例会、合同事業であります。先輩の会員の方から、若い何も知らない若造が何を言っていると言われるかも知れませんが、今迄の色々な流れ、いきさつがあるかも知れませんが、同じ地域で、同じ様に自分達の資質の向上に励み、奉仕の活動をしている、言ってみれば仲間であります。同じ場所に同じ様に事務局を設置して、お互いが変な意識を持つ事の方が、不自然であります。1年に1回位は合同の例会、合同の事業を行なっても良いのではないのでしょうか、そして、それを更に前進をさせて、JC、LC、RCの3団体で、合同会館の建設も夢でありましょうか。

そして、もう一つの夢は、10年後、尾張旭が10万都市になった時に、会員数を100名以上確保しロータリーの分離、チャーターナイトであります。先輩方は今のクラブのチャーターに立ち合っておられますが、若いメンバーはチャーターの素晴らしさを経験しておりません。私もJCでは、チャーターメンバーでした。あの感動、感激は立ち合った者でなければ解かりません。10年後のチャーター目指して、新しい会員の発掘、増強に努めたいと思います。是非もう一度、あの感動、感激を肌で味わって見たいと思います。

最後にRCには日帰りの各地区の大会と、いっそ上の世界会議しかありません。1年に1度位、日本のどこかで全国の会員の為の全国大会という様なものがあれば、我々も1泊か2泊で出掛けられる機会が与えられると思われれます。お互い会員同志裸の付き合いは、同じ宿で寝食を共にしなければ仲々出来るものではありません。毎年違った土地で、そんな大会があったら、私はどんどん出掛けてみたいと思いますが、皆さんはいかがでしょう。